

## 第30回三重県理学療法学会

テーマ 「機能障害へのアプローチ」

日時:2019年3月10日(日)AM9:30 開始(9:00 受付)

場所:三重大学医学部総合医学教育棟2階 臨床第三講義室

### 【ご挨拶】

第30回三重県理学療法学会

学会長 井出 宏

医学的リハビリテーションの特徴の一つとして様々な職種によるチームアプローチの実践があります。チームアプローチの目標は、対象になる方々の「より良い生活の獲得」に向けて医師、看護師、作業療法士、臨床工学技士、社会福祉士などの専門職が上記の目標に向かって協働していくこととされています。そして、この考え方は健康づくりを含めた地域包括ケアシステムの広がりの中で臨床場面においても深化し、学術的にも **Traditional medical model** から **Transdisciplinary team model** へ、という概念が議論され始めています。そのため、チームアプローチに携わる理学療法士は、他職種の専門性を理解し、他職種連携を深めていくことが必要不可欠な臨床スキルとして求められています。

一方で、様々な専門職の中で理学療法士自身の自己同一性を再認識することの難しさを実感することが多くなっています。現在に至っても他職種に理学療法士と作業療法士の違いや理学療法士が能力障害・活動、機能障害を変化させうる職種であることを説明しなければならないことから現状の厳しさを実感します。つまり、我々、理学療法士は、能力障害・活動制限の原因となる機能障害を評価し、その原因を治療・トレーニングすることによって疾患、能力障害を変化させ、社会参加を促し、環境や個人因子にも働きかけうる職種である、ということです。この視点と実践が理学療法士の自己同一性であると考えます。

今回の学会は、機能障害の評価、治療・トレーニングに注目できるような学会を意識し、プログラムを構成しました。教育講演では、一年間のオーストラリア留学や国際学会への参加、海外の理学療法士との交流をもとに、理学療法、特に運動器分野の臨床・教育・研究について今後のヒントになる講演をしていただく予定です。特別講演では、呼吸機能障害は酸素供給が低下することによって運動が制限される障害であることを踏まえ、呼吸機能障害を理解することがより安全で効果的なアプローチにつながる、という視点から呼吸器疾患の評価、治療・トレーニングを解説していただく予定です。また、一般演題でも機能障害に注目した演題が多く発表されます。本学会を通じて、三重県の理学療法士の活動を参加者みなさんと共有していただき、理学療法士の可能性を少しでも再認識していただければと思います。

【特別講演】 呼吸器疾患における機能障害へのアプローチ

畿央大学大学院 健康科学研究科 田平一行

呼吸器の役割は、外界から肺を通じて血管内に酸素を取り込み、血管内の CO<sub>2</sub> を体外に排出することである。血管内の酸素は循環器によって各組織に運ばれ、有酸素代謝により組織の活動および運動のエネルギーとして供給される。つまり呼吸器障害はエネルギー供給系の障害であり、基本的には低酸素血症を生じる。低酸素血症の原因は大きく換気障害、拡散障害、換気-血流比不均等分布、右左シャントに分けられる。例えば換気障害の原因としては、呼吸筋力の低下、胸郭のコンプライアンスの低下、気道閉塞などがあり、各々呼吸筋トレーニング、胸郭可動域訓練、口すぼめ呼吸などがそのアプローチとして考えられる。実際の症例では、原因は 1 つだけでなく複数含んでいることが多いため、正確に評価して、各々の原因に対してアプローチすることが重要である。

また呼吸器疾患であっても、肺性心などの循環器の問題や、骨格筋の酸素抽出能力の低下といった問題により、身体の酸素不足状態を増悪させていることも多い。本講演では、エネルギー供給障害という観点から、呼吸器疾患における機能障害のアプローチについて考えて行きたい。

【教育講演】 「理学療法の明日はどちらだ？」

～井の中の蛙にならないために、世界に目を向け考える～

畿央大学大学院 健康科学研究科 瓜谷大輔

科学技術の革新によって我々は世界中から膨大な情報を瞬時に手に入れることができるようになりました。様々な分野で世界は近くなり、「グローバルスタンダード」「ボーダーレス」といった言葉をあちらこちらで目にします。では、理学療法の領域ではどうでしょうか？文献の検索は容易になり、海外からは著名な臨床家や研究者が来日し、世界の先端に行く知識や技術に触れることができる機会も格段に増えました。世界中から理学療法に関する情報を得るチャンネルは飛躍的に増加したといえるでしょう。しかし我々はそれらを批判的に吟味し、考察したうえで実践できているのでしょうか？日本から理学療法に関する情報を発信し、理学療法の発展にどれだけ貢献できているのでしょうか？私は学生時代や駆け出しのころに、「日本の理学療法は世界から 10 年、20 年遅れている」なんてことをよく聞きました。世界の理学療法を見渡してみた時に、さて一体、我々は今どこに立っているのでしょうか？

本講演では理学療法の臨床・教育・研究について、世界の中での我々の現在の立ち位置を見つめ、今後の針路を皆さんと考えてみたいと思います。

## プログラム

9:30～9:35 開会式

9:35～10:35

一般演題 1 運動器理学療法

座長 南端翔多 (三重大学医学部附属病院)

1) 腰部脊柱管狭窄症術後の慢性腰痛に対する介入

市立伊勢総合病院 リハビリテーション室 大野裕也

2) 左股関節と足部の感覚障害の改善により歩行動作の安定性が向上した頸椎症性脊髄症の一症例

榊原白鳳病院 リハビリテーション科 清原克哲

3) 足趾脱臼骨折術後の MTP 関節可動性獲得における一考察

岡波総合病院 リハビリテーション科 佐藤雄介

4) 大腿骨骨幹部骨折の深屈曲獲得に向けて下腿内旋に着目した一症例

社会医療法人 幾内会 岡波総合病院 山本咲枝里

5) 立ち上がり動作において左後方へ不安定となる右臑胸後の廃用症候群の一症例

榊原白鳳病院 リハビリテーション科 木下晃紀

6) 腰椎変性側弯症に対して脊椎矯正固定術を施行した症例

三重大学医学部附属病院リハビリテーション部 末林あい

10:35～11:35

教育講演

座長 猪田茂夫 (伊賀市立上野総合市民病院)

理学療法の明日はどっちだ？

～井の中の蛙にならないために、世界に目を向け考える～

畿央大学大学院 健康科学研究科 瓜谷大輔 准教授

11:40～12:20

一般演題 2 教育・災害・介護

座長 南出光章 (複合型介護施設群しおりの里)

7) 介護予防イベントにおける測定結果に対する印象について

医療法人尚豊会 みたき総合病院 リハビリテーション科 長瀬将人

8) 生活機能向上連携加算が与えたりハビリテーションへの意識

三重つくし診療所リハビリセンター 中田耕平

9) 西日本豪雨災害リハビリテーションにおける岡山ロジスティクス支援活動

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 理学療法学科 齋藤恒一

10) 南勢ブロック研修会の申込者数の比較と研修会情報の取得手段について

一般社団法人 三重県理学療法士会 南勢ブロック長

伊勢慶友病院 リハビリテーション科 岩崎武史

13:00～13:50

一般演題 3 神経理学療法①

座長 富田 憲 (藤田医科大学七栗記念病院)

- 11) 意欲低下を伴う対麻痺患者の起居動作に対し逆方向連鎖化手技にて介入を行った一例  
JA 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科 杉本景祐
- 12) 右延髄外側梗塞により Lateropulsion を呈した 1 症例  
～独歩難渋例の背景と今後の課題～  
鈴鹿回生病院 リハビリテーション課 舟橋侑里
- 13) 高頻度歩行練習により病棟内 T 字杖歩行自立を獲得した重度片麻痺者の一症例  
済生会明和病院 垣谷夏実
- 14) 早期発見により麻痺症状を認めなかった特発性脊髄硬膜外血腫を呈した一症例  
～術後疼痛による上肢挙上不能と拘縮予防について～  
市立伊勢総合病院 リハビリテーション室 三島慎太郎
- 15) 当院における電気療法の実施状況と普及に向けた取り組み  
医療法人松徳会 花の丘病院 沖野 旭

13:00～13:40

一般演題 4 呼吸理学療法

座長 守川恵助 (松阪市民病院)

- 16) High-Flow Nasal Cannula を使用した COPD 急性増悪患者に対して医用無停電電源装置を使用した一症例  
松阪市民病院 リハビリテーション室 鈴木優太
- 17) 外来呼吸リハビリテーションの効果と課題 –COPD 症例を通して–  
津生協病院附属診療所 宮岡千恵
- 18) 歩行動作の改善により呼吸困難感が軽減した慢性閉塞性肺疾患の一症例  
榊原白鳳病院 リハビリテーション科 板井丈一郎
- 19) 当院の急性期呼吸理学療法の取り組みについて  
～離床基準を用いて、安全に離床を進めることが出来た 1 症例～  
津生協病院 リハビリテーション科 小川直哉

13:55～15:25

特別講演

座長 井出 宏 (津生協病院)

呼吸器疾患における機能障害へのアプローチ

畿央大学大学院 健康科学研究科 田平一行

15:30～16:20

一般演題5 神経理学療法②

座長 岩田研二(花の丘病院)

20) 重度脳卒中患者における練習提供量を増加させる工夫

藤田医科大学七栗記念病院リハビリテーション部 里地泰樹

21) 体幹・骨盤機能が重度片麻痺の歩行獲得に寄与した一症例

社会医療法人畿内会 岡波総合病院 中平智之

22) 内的リズム形成課題によりすくみ足が改善し歩行自立に至った一症例

済生会明和病院 高原俊幸

23) バランス練習アシストを用いた姿勢制御練習によりバランス機能の改善を認めた一例

藤田医科大学七栗記念病院 松山星奈

24) 脳卒中患者における栄養状態と日常生活活動との関連について

みたき総合病院 リハビリテーション科 近藤百合菜